

第 97 期部門長挨拶  
部門長（第 97 期）筒井 壽博

第 97 期技術と社会部門の部門長を務めさせて頂くことになり、遅ればせながら一言ご挨拶申し上げます。

さて、今期は新たなる日本機械学会の基幹部門へと躍進するためのチャレンジの年と心得まして、中田俊彦副部門長、田辺基子幹事はじめ 48 名の運営委員会委員のみなさまのご協力を仰ぎ、部門の夢を描けるよう精進して参ります。



技術と社会部門ではこれまで複雑高度に発達した現代社会の理解について諸技術と社会の構造や現象との関係性の中で議論し、技術者倫理、工学教育、環境・エネルギー教育、技術史や機械遺産など歴代部門長の指導のもと分野横断的な様々な課題が取り上げられて参りました。たとえば、幕末からの我が国の急激な技術の発達史は機械遺産として振り返り、理系離れが叫ばれて久しい中学・高校生を対象としては身近な教材によるコンテストで技術の面白さを伝え、また、時事問題からテーマアップし企業の方々などにはセミナー形式で技術者倫理の話題を提供しています。

一方、昭和の時代にはまだまだ SF レベルの話題であった自動運転など社会の自動化の問題も AI や IoT 技術の発達にともなうシンギュラリティの問題と認識されはじめ、ビッグデータなど高速かつ大規模なデータ処理技術は社会における人権や倫理に関する新たな課題を内方することが理解されています。これらの技術がどのような姿で社会に普及するべきなのか、そう言ったヴィジョンは持続可能な開発目標（SDGs）にも示されているように、もはや従来の専門分野の学問だけでは描けない状況にあると言わざるを得ないでしょう。このような背景の中、技術と社会部門の果たす役割は一層重要になってきており、分野横断的な新たな技術分野や様々な問題について、権威主義に陥ることなく自由な雰囲気議論することができる場が求められております。当部門の部門講演会や年次大会でのオーガナイズドセッションやワークショップは機械工学全分野の研究者のみならず市民の方々とも意見交換できる場を、また開催 200 回を超えるイブニングセミナーは技術と社会の関わりを広く理解し将来を展望する場をそれぞれ提供しています。さらに、隔年で ICBTT/TS（経営と技術移転/技術と社会に関する国際会議）を開催し海外の技術者と経営者との交流も続いています。

多くの技術者や科学者は技術の発達こそがよりよい社会を実現すると信じています。しかしながら、産業界、政府機関、大学や高専などの高等教育機関でそれぞれの描くヴィジョンは必ずしも共有されているとは言えない状況にあります。当部門では、日本機械学会の中でも技術の本質を研究する絶好のポジションにあり、過去を振り返り、現在を深く理解し、よりよい未来社会のヴィジョンを提供できる基盤を形成しつつあり、今後の活動が期待されています。知的財産や産学官連携を切り口としたオープンイノベーションの場を提供することも今後の当部門のミッションと捉える必要があると思われれます。

これまでの研究活動成果を学会誌や学会論文集さらには英文ジャーナルにより内外に発表し、産・学・官各方面の有志の方々へのよりよい情報提供をとおし、日本機械学会会員のみなさまから期待される技術と社会部門へと発展できるよう微力ではございますがお手伝いさせて頂ければと思います。ご支援ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

（弓削商船高等専門学校 研究担当副校長 筒井壽博）